

平成21年度 朝来市水道事業経営状況

I 経営状況

水道事業は、地方公営企業のため、独立採算制(財貨又はサービスを供給し、それに要する経費を料金という形で回収し、その料金によって新たな財貨やサービスを再生産し、企業活動を継続していく)で運営され、受益者負担が原則となっています。そのため水道事業は、利用者からいただいた水道料金により管理・運営を行っています。

近年、市の水道事業を取り巻く環境も、少子高齢化の進展、節水型機器類の普及、景気の低迷などにより水需要が伸び悩んでおり、料金収入の増加が期待できない状況となっています。一方で、合併による施設の一体化、老朽化、耐震化、危機管理等への取り組みなど課題も多くあり、経営は大変厳しい状況になりつつあります。

このような中、平成21年度決算は業務改善などによる経費節減に努め、11,247千円の純利益を計上することができました。

しかし、平成21年度も供給単価から給水原価を差引く損益は、給水原価が供給単価を4円94銭上回る結果となり、依然として損失状況が続く厳しい経営状況にあります。

「安全でおいしい水を安定的に供給する」ことは水道事業の使命であり、今後も、水源の確保、老朽化した施設の更新、緊急時用連絡管の整備を計画的に進めていきます。

II 業務量

| 項目 | | 平成21年度 | 平成20年度 | 比較 | | |
|----|-------------------|---------|-------------------------|-------------------------|------------------------|-------|
| | | | | 増減 | 比率 | |
| 1 | 総人口(外国人含む) | 34,179人 | 34,610人 | △431人 | 98.8% | |
| 2 | 給水区域内人口(注)1 | 33,432人 | 33,831人 | △399人 | 98.8% | |
| 3 | 給水人口 | 33,113人 | 33,507人 | △394人 | 98.8% | |
| 4 | 給水戸数 | 13,205戸 | 13,157戸 | 48戸 | 100.4% | |
| 5 | 普及率(給水人口/給水区域内人口) | 99.0% | 99.0% | 0% | 100.0% | |
| 6 | 配水量 | 年間 | 5,041,539m ³ | 5,181,954m ³ | △140,415m ³ | 97.3% |
| | | 1ヶ月平均 | 420,128m ³ | 431,830m ³ | △11,702m ³ | 97.3% |
| | | 1日平均 | 13,812m ³ | 14,197m ³ | △385m ³ | 97.3% |
| 7 | 有収水量(注)2 | 年間 | 4,236,966m ³ | 4,354,475m ³ | △117,509m ³ | 97.3% |
| | | 1ヶ月平均 | 353,081m ³ | 362,873m ³ | △9,792m ³ | 97.3% |
| | | 1日平均 | 11,608m ³ | 11,930m ³ | △322m ³ | 97.3% |
| | | 1人1日平均 | 351ℓ | 356ℓ | △5ℓ | 98.6% |
| 8 | 有収率(有収水量/配水量) | 84.0% | 84.0% | 0% | 100.0% | |
| 9 | 供給単価(注)3 | 155.25円 | 156.21円 | △0.96円 | 99.4% | |
| 10 | 給水原価(注)4 | 160.19円 | 157.89円 | 2.30円 | 101.5% | |
| 11 | 供給単価-給水原価 | △4.94円 | △1.68円 | △3.26円 | 294.0% | |

※人口・戸数については、平成22年3月末現在の数値。

(注)1 給水区域内人口：総人口から簡易水道・専用水道・特設水道区域内人口を除いた人口。

(注)2 有収水量：配水量のうち、料金収入として有益となる水量を表す。

(注)3 供給単価：有収水量1m³当り、どれだけの収益を得ているのかを表す。

(注)4 給水原価：有収水量1m³当り、どれだけの費用がかかっているのかを表す。